

12月号 TOPICS

- 2面…学校健診後調査から
- 3面…後発医薬品使用体制加算
- 4面・5面…定期総会協賛広告
- 6面…令和2年度個別指導返還金額
- 7面…日本の城郭
- 8面…気になるワインの話

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 円共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷
第505号

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

協会 第46回定期総会開催

コロナ禍による受診抑制を防ぎ 県民医療向上へ活動方針を決定

11月20日、山形市大手門パルズで協会の第46回定期総会が行われた。開会にあたり中島幸裕理事長は「会員の先生方のおかげで会員が増えている。まだまだコロナもインフルエンザも心配な状況が続くが、引き続き活動を発展させていきたい」とあいさつを述べた。

総会では鈴木康洋副理事長がこの一年の活動の特徴を報告した。新型コロナウイルス対策では、診療報酬上の臨時的な取扱いや医療機関への補助金について会員へ発信した。

また、県内67病院すべてに対し新型コロナウイルス感染症拡大による施設基準

管理への影響を調査。43病院から回答を得、回答率は64%にのぼった。「スタッフの確保が困難」や「入院患者数の減少」などが原因で、施設基準を満たせなくなるなどの影響が明らかになった。この調査結果を報道各社に発表し、山形新聞、県内ニュース、ラジオで報道された。

75歳以上の窓口負担2割化の問題では、山形市内の国会議員事務所を訪問、中島理事長、豊田副理事長が2割化反対の要望書とクイズハガキに寄せられた患者の声を届け、「高齢者はこれ以上の負担増に耐えられない」と患者の実情を訴えた。

そのほか、県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校412校を対象に、学校健診後治療調査を行った。

149校から回答があり、回答率は36・2%にのぼった。学校健診で「要受診」となった児童・生徒の4割が未受診の状態に置かれていることが分かり、調査の結果を報道各社に発表し

たところ、山形新聞、河北新報、毎日新聞、朝日新聞、県内ニュースで報道された。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新規開業医などへの訪問活動の自粛、対面式の講演・研修・研究会などを中止せざるを得ない状況だったが、研修会のウェブ開催などにより18名もの新会員を迎え、年度末会員数860名と、3年連続過去最高を更新した。

第46期活動の重点課題は、①患者負担増中止、②75歳以上窓口負担2割化中止、③コロナ禍による受診抑制を防ぐ、④診療報酬引き上げ・不合理点数是正、⑤保険でより良い歯科医療を求める、⑥新点数検討会の開催、⑦消費税の増徴解消を求める、⑧審査・指導の改善、⑨共済制度の普及、入会の促進を提案。時局対策として、新型コロナウイルス感染症対策やマイナンバーカード問題などに引き続き対応する。活動報告と方針は全会一致で可決された。

次に今年度決算と監査報告、来年度予算の提案が行われ、決算、予算ともに了承された。

最後に、県民のいのちと健康を守るため、医療機関の減収問題、感染症対策に係る医療体制の整備、妊産婦医療費助成制度創設や子ども医療費無料化拡充、新型加熱式たばこの規制など10の諸課題に取り組みことを掲げた決議が提案され、拍手で採択された。



第46回定期総会への 祝電・メッセージ

以下の個人、団体から定期総会に対して祝電・メッセージが寄せられました。御礼申し上げます。(順不同、敬称略)

国会議員

- 衆議院議員 遠藤利明
- 衆議院議員 加藤鮎子
- 衆議院議員 鈴木憲和
- 衆議院議員 芳賀道也
- 参議院議員 舟山康江

政党

- 日本共産党山形県委員会 委員長 本間和也
- 山形県社会民主主義フォーラム 代表 高橋啓介

医療団体等

- 全国保険医団体連合会 会長 住江憲勇
- 医療生活協同組合やまがた 理事長 小川 裕
- 山形県生活協同組合連合会 会長理事 菅井道也
- 山形県社会保険推進協議会 会長 高木紘一
- 山形県商工団体連合会 会長 佐藤 弘
- 新日本婦人の会山形県本部 会長 奥山一恵
- 山形大学医学部附属病院 院長 佐藤慎哉

県内首長

- 山形県知事 吉村美栄子
- 山形市長 佐藤孝弘
- 米沢市長 中川 勝
- 鶴岡市長 皆川 治
- 酒田市長 丸山 至
- 上山市長 横戸長兵衛
- 村山市長 志布隆夫
- 長井市長 内谷重治
- 尾花沢市長 菅根光雄
- 南陽市長 白岩孝夫
- 山辺町長 遠藤直幸
- 中山町長 佐藤俊晴
- 西川町長 小川一博
- 大江町長 松田清隆
- 大石町長 村岡藤弥
- 金山町長 佐藤英司
- 最上町長 高橋重美
- 白鷹町長 佐藤誠七
- 飯豊町長 後藤幸平
- 庄内町長 富樫 透

各協会・医会

- 北海道、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、東京都、神奈川県、神奈川県、滋賀、京都、大阪、鳥取、広島、山口、島根、高知、徳島、愛媛、長崎、佐賀、熊本、宮崎、大分、沖縄

保険会社等

- 大樹生命保険株式会社 代表取締役社長 有末真哉
- 山形支社長 小関和之
- 富国生命保険相互会社 代表取締役社長 米山好映
- 富国生命保険相互会社 山形支社長 関口淳一
- 太陽生命保険株式会社 取締役専務執行役員 初芝 進
- 税理士 池田孝司

山形県議会議員

- 相田光昭、伊藤重成、榎津博士、梅津庸成、奥山誠治、梶原宗明、金澤忠一、小松伸也、今野美奈子、坂本真英雄、志田英紀、柴田正人、島津良平、鈴木 孝、高橋啓介、高橋 淳、松田敏男、森谷仙一郎、矢吹栄修、山科朝則、渡辺ゆり子



つばさ
今日は11月10日。緊急事態宣言の解除から1ヵ月以上経過したわけだが、幸いな事に未だ第6波に至らないことを祈りたいが、欧州では規制緩和が進み過ぎたのか、新たな流行の増加が報道されている。国立遺伝学研究所と新潟大が、コロナウイルスのゲノムの修復を司るsnP14を宿主の持つAPOBECと言う酵素が破壊したため自壊したのだという説を唱えた。しかも日本人や一部のアジア人はこのAPOBECの作用が一段と強いのだそう。とすれば、今の感染の減少は良い兆しなのかもしれない。初期のα型株は、もうこの世には存在しない。(この家系?)はもう絶滅したわけだ。しかしそれにとって代わって次々と変異株が現れ、第5波ではδ株が一世を風靡したわけであるが、この家系ももう絶滅寸前だとしても、新たな変異株が現れないとどう保証はない。「もう終息したのだ」とマスクを外して、密な集まり、飲食をしたから、欧州では増加したのかもしれないが、日本でも、完全収束したわけではないから、新たな変異株が出現するかもしれないし、二度接種した人の免疫が低下するならば、油断は観はできない。この拙文が掲載される頃にはどうなっているのか? (Y)

断楽観はできない。この拙文が掲載される頃にはどうなっているのか? (Y)